

長野 5 区 <飯田市、伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡、下伊那郡>

立候補予定者			
	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
問 1 日本の医療制度 (1) 日本の医療保険制度の評価	評価している	あまり評価できない	
(2) 改善すべき点		<p>誰でもどこでも一定の水準の医療を受けることができる国民皆保険制度は日本の自慢であり、維持しなければならない。国保広域化によって都道府県が保険者になるが、負担増にならないよう、また住民ニーズに対応した柔軟な対応がおろそかにならないようにせねばならない。</p>	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。
問 2 医療費の患者窓口負担割合 (1) 義務教育終了まで無料	賛成	賛成	
(2) 義務教育終了後から 65 歳未満は 2 割	その他	反対	
(3) 70 歳以上は 1 割に戻す	その他	賛成	

立候補予定者	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
(理由・意見)	負担軽減に係る財源確保が必要	所得・年齢の高低にかかわらず、すべての国民に必要な医療が提供されねばならない。窓口での負担を重く感じ、受診を控えるケースも少なくない。コンビニ受診に対する啓蒙は必要だが、受診を控えて重篤化が進むことのないよう、患者負担は低いことが望ましい。	
問3 福祉医療費の窓口無料など自治体事業に対する国保の国庫負担金減額措置について	必要である	廃止すべき	
(理由・意見)		窓口無料化により受診が増え医療費が増加すると危惧する声もあるが、早期受診により重症化が避けられ医療費総額が抑制されるという専門家もいる。低所得層が受診を控えねばならないという不公平はあってはならない。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。

立候補予定者	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
問4 今後検討される医療制度等改革 (1)かかりつけ医以外受診の定額負担	反対	反対	
(理由・意見)	患者の選択自由度、利便性を制限してしまう。	地域内医療機関の役割分担は大切な課題であり、かかりつけ医といい関係を持つことは重要であるが、啓蒙によって対処すべきことと思う。医療費削減のためにペナルティのような形で負担を一律に求めることには反対する。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。
(2)75歳以上窓口負担を2割へ引き上げ	反対	反対	
(理由・意見)	できるだけ上げない方がいい。上げるにしても、1割上げるのは難しい。	今年度は介護保険の負担増、医療保険での入院中の食事代の負担増などが相次いだ。これ以上の負担によって受診控えが生まれることがないようにせねばならない。早期受診早期治療によって患者自己負担も医療費も軽減できると考える。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。

立候補予定者	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
(3) 湿布など市販類似薬の保険外し	反対	反対	
(理由・意見)	市販や類似に関わらず、医師が必要と思ったら保険給付で薬を出すべき。	保険給付から外せば全額自己負担になる。病状も患者の体質もさまざまであり、漢方薬には西洋医学を補完する役割も期待されている。ドクターが適切と判断する選択肢から除外すべきではない。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。
(4) 都道府県別の診療報酬の設定	賛成	反対	
(理由・意見)	最低賃金は都道府県ごとに異なるため。	医療は社会的共通資本であり、ナショナルミニマムとして堅持されねばならない。財政的理由によって都道府県に責任を押しつけてはならない。全国一律の報酬体系が国民皆保険制度の維持には必要である。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。

立候補予定者	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
問5 診療報酬、介護報酬改定 (1) 次回診療報酬改定率について	引き上げるべき	引き上げるべき	
(理由・意見)	医師不足解消のため。	一般病院の4割が赤字計上と言われ、先進国の中でも医師数の非常に少ない日本の医療は医療者の「献身」によって支えられている。患者以前に医療現場の人々自身が健康であり、患者と地域のために活躍できる体制をつくることが重要だ。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。
(2) 次回介護報酬改定率について	引き上げるべき	引き上げるべき	
(理由・意見)	介護の慢性的な人手不足、サービス向上には不可欠。	介護職の離職率は他の産業に比べて高いと言われる。多くの事業所が人手不足であり、事業の縮小、中断を余儀なくされるところもある。背景には低賃金や将来展望が持ちにくい不安があると思う。頑張りに応えられる待遇改善が必要である。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。

立候補予定者	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
問6 消費税、社会保障財源等 (1) 消費税率の10%への引き上げ	その他	反対	
(理由・意見)	判断するには早い。	徴税の方法は消費税だけではない。消費税ありきではなく、どういうところから税を集めるべきか、一から幅広い視野で考えるべきである。税の使い道も、医療、福祉、教育など国民生活の向上に直接資する分野に厚くすべきである。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。
(2) 社会保障財源は応能負担原則を徹底し、直接税や保険料で賄うべき	賛成	賛成	
(理由・意見)	税のバランスは考える必要があるが、税とサービスを結びつける必要がある。	消費税の問題のみならず、日本は、税として分類されないけれど義務的に徴収される「税もどき」が多く、低所得層の負担感が高い。負担してもらうべきところに負担を求め、国民生活の向上に直接貢献する分野に税を使うべきだ。国民の暮らしを向上して購買力を回復すれば、モノも金も廻り始め、景気や国内経済の実感できる向上が実現できる。	

立候補予定者	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
(3)社会保障への予算重点化は雇用創出効果も高く、内需を刺激し景気回復につながるといった考え方	その他	賛成	
(理由・意見)	景気回復にはつながるが、生活不安の解消に起因するものではないか。	医療や介護のサービスは、需要は高まっていっているのに、労働環境は過酷で待遇もよくないため、十分な従事者が確保できない。待遇改善して人を増やすことは、必要なサービス提供に不可欠である。購買力、内需の拡大にもつながる。最近AIが多くの労働を肩代わりすると言われるが、医療や福祉の現場はAIには無理であり、心の通うサービスが必要。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。
(4)保険診療にかかる消費税はゼロ税率とすべき	賛成	賛成	
(理由・意見)	当然と考える。	受診にかかる負担をさらに上げれば、重病化するまで受診を控える傾向が広がり、かえって医療費を上昇させる可能性がある。医療費のみならず、生存に必要な出費へ消費税は、除外する、あるいは税率に十分な配慮をすることが必要である。	

立候補予定者	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
問8 その他 (1)米国抜きのTPP協定の推進について	その他	反対	
(理由・意見)	現状のTPPには賛成できないが、米国抜きで条件見直しが可能であれば推進を検討してもよいのではないか。	トランプ大統領以前に米国主導で進められていたTPPは、グローバル企業の利益を代弁するものだった。知的財産保護を強化し薬の特許期間を延長するなど、けっして自由化ではない。現在のTPPがどんな内容か、秘密主義で国民に知らされていないことも問題である。米国との二国間協定の前提、下敷きにもされかねず、危険である。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。
(2)平和安全保障関連法について	その他	廃止すべき	
(理由・意見)	すべてに反対ではないが、集団的自衛権の扱いには納得していない。	特に集団的自衛権は、自衛隊の若者を、アメリカから買った兵器とともにアメリカの戦争に差し出すことになる。平和という理想にむけてあらゆる努力を積み重ね、世界をリードするべきであって、現実妥協的に理想から遠ざかってはならない。	

立候補予定者	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
(3) 日本国憲法第9条の改正について	改正すべきでない	改正すべきでない	
(理由・意見)	今は改正すべきでない。	日本は平和国家という理念を掲げて、「武力によって問題を解決しようとする考えは恥ずべきものだ」という常識が世界に定着するよう、真摯に努力すべき。世界の世論をリードすべき。核兵器廃絶に賛成もできない日本は、恥ずかしい。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。
(4) 日米安保や地位協定の見直しについて	見直すべき	見直すべき	
(理由・意見)	定期もしくは隨時見直すべき。	密室の取り決めである日米地位協定が、憲法より実質的に上位にある現状は、独立国家として異常である。健康で文化的に暮らすという国民の生存権が、米軍の都合で脅かされている。東信など県内でもその兆候はあり、沖縄だけの問題ではない。	

立候補予定者	中嶋 康介	曾我 逸郎	宮下 一郎
	希望	無所属	自民
(5) マイナンバー制度について	見直すべき	廃止すべき	
(理由・意見)	もっと横断的に使うのであれば、行政の使い方にムラがある。	住民側のメリットが感じられない。 管理されることや個人情報漏洩に対する不安もある。 信頼できる制度設計と国民の十分な理解がないまますすめても無駄な投資である。	期日までに政策に関する見解が得られませんでした。
問9 医療政策に関する自由意見	政治が解決しなければならない課題が山積している状況ですが、そんな大変な医療の現場をお支えいただいている皆様に心から感謝です。ぜひお力になりたいと思っております。	健康にすこやかに暮らすことは、人間すべての最も重大な関心である。ところが今、過酷な状況によって医療現場は疲弊している。まず医療関係者が健康ですこやかにはつらつと働くように、環境を整えなければならない。中山間地でも、必要な医療サービスが受けられるという安心があつてこそ、地域の暮らしは持続可能なものとなる。過酷な状況の中、努力を続けて下さっている医療関係者に感謝申し上げるとともに、それにこたえる制度を構築していかねばならないと思う。	